

令和8年度 学校自己評価システムシート (県立常盤高等学校) s 34

目指す学校像	豊かな人間性、確かな知識・技術を兼ね備えた看護のスペシャリストの養成
--------	------------------------------------

重点目標	1 主体的な学びを促進する魅力ある授業を追求し、授業改善を推進することで、学力の一層の向上を図る。 2 教職員一丸で社会の変化に対応できる教育活動を実践することで、心身ともにたくましく規律ある生徒を育成する。 3 看護職への自覚を高めるとともに、看護師としての職業観・倫理観を育成するキャリア教育を推進する。 4 地域・保護者・関係機関との連携強化と効果的な情報発信により、愛され信頼される学校づくりを推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学校自己評価								学校関係者評価	
年度目標					年度評価(2月1日現在)			実施日 令和年月日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	<p>(現状) 一人一台端末の導入が4年目となり、看護科及び専攻科でも電子教科書等の導入が進んでいる。授業中の発表や協働学習のツールとして使用され、授業理解を実感する生徒も多い。</p> <p>(課題) 多様な学びのスタイルに対応するとともに、生徒のより深い学びのためにICTをどのように活用すべきか、教員間の研修を行う必要がある。また、教員間の指導の統一性や生徒への指示・連絡についての共通理解を深め、組織的な指導体制を強化する必要がある。</p>	○育てたい看護師像に向けた学力定着と看護技術向上及び資質能力を育成する。	①授業及び実習計画の精選と端末の効果的な活用と応用及び校内実習プログラムの構築の工夫、充実を行う ②授業公開や研究協議の実施。また、端末を活用した授業公開やICT活用教員研修会を実施 ③生活実態アンケートの実施(年1回実施) ④スタディサプリの活用について検討し、生徒・教員にとって有効な教材となるように工夫する	①各教科・科目の授業で、シラバスや目標に近づく授業実践ができたか ②ICT活用研修会の実施により、教員のスキルが向上し、授業改善に実践に生かすことができたか ③生活実態アンケートにより、生徒自身が生活を振り返り、自己改善に向かうことができたか ③学習時間の増加と生徒の授業に向かう意欲態度の向上や学びに向かう態度がみられたか ④スタディサプリ活用に向けた共通理解が教員間で行われ、その活用が定着し、生徒の基礎学力向上につながったか					
2	<p>(現状) 生徒の多くは基本的な生活習慣が確立しており、落ち着いた学校生活を送っている。生徒会を中心とした学校行事が活発である。その一方で教育相談等、支援を必要とする生徒もみられる。各学年を中心に生徒へのきめ細やかな指導を実施している。</p> <p>(課題) 日頃から各学年を中心に、生徒の個に応じたきめ細やかな指導を進めている。しかし、高等学校進学時に進路を決定したことに頑張れる生徒並びに高校進学後に進路について悩む生徒への両面の支援が不可欠であり、そのために保護者との丁寧できめ細かい連携が必要である。</p>	○看護師として求められる資質と社会性を育成するための教育支援を実施する。	①教員の教育相談力の向上と組織体制の構築。また、生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境づくりを組織的に進める(教員アンケートの実施) ②複雑化する医療業界への興味関心の向上 ③学校行事を通じて学校生活の充実と質の向上 ④生活実態アンケート及び保護者アンケートの実施(年1回実施)	①生徒支援委員会を中心とした教育相談体制が構築できたか ①面談や日頃から保護者との連携が強化され、一層の生徒理解に繋がれたか ②臨地実習や外部講師による授業・講演会等と通じて、視野が広がったと回答した生徒が80%以上いたか ③学校行事や部活動を通して、学校生活の充実と連帯感を深められたか ④生徒が安心して学校生活を送っていると回答した生徒・保護者が80%以上いたか					
3	<p>(現状) 看護師国家試験の合格率は高い水準を保っている。日頃からきめ細かい指導を行っており、卒業後の進路選択(大学編入や看護関連資格取得をめざした専門学校への進学)も多様化しつつある。</p> <p>(課題) 看護師国家試験の合格はもちろん、多様な進路実現にも対応するためには、基礎学力と学習習慣の定着が必要である。そのためには、看護科(高校)からの計画的な学習指導・キャリア教育が必要である。5年一貫教育のメリットを活かした段階的な学びと支援を意識した指導を実施していく必要がある。</p>	○目指す看護師像の追求及び看護師国家試験合格と多様な進路にも対応した進路実現を目指す。	①《進路の手引き》を活用した進路指導を看護科低学年から実施 ①看護科と看護専攻科が共に進路指導部と連携し、修了後を見据えた進路対策及び看護師国家試験対策を組織的に行う ②キャリアプロジェクトにてポートフォリオを作成し、「なりたい看護師像」の自己形成を支援 ③病院説明会や進路講話、修了生懇談会等を通じて、生徒の幅広い進路選択の一助となるための進路指導を実現	①効果的な進路行事を提供し、生徒及び保護者の理解を深めることができたか ①高い看護師国家試験合格率と進学希望者の進学実現を達成できたか ②キャリアポートフォリオを作成し、各自が納得いくものになったか ③進路行事や講演会等の参加によって、自己の適性に合った進路実現につながったと回答した生徒が80%以上いたか					
4	<p>(現状) 臨地実習病院や大学や病院関係者の協力により、専門性の高い教育活動が推進されている。県内の各中学校から看護師を目指す生徒が入学している。(R8入試1.10倍 R7入試1.19倍)</p> <p>(課題) 少子高齢化に伴い、医療・介護需要が高まる中、看護師の人出不足が社会問題になっている。県内唯一の看護専門学校としての本校の使命を果たすためには、将来地域の保健・医療に貢献する看護師の育成を使命としており、看護の魅力発信を積極的に進める必要がある。</p>	○保護者・地域・関係機関との連携を密に行い、本校理解のための工夫改善をすることで生徒募集に繋げる。	①学校説明会の実施内容の見直しと工夫 ①外部向けイベントへの積極的な参加と新たに小学校等に向けた広報活動等を実施 ②保護者面談を看護科全員実施し、これまで以上に連携を強化 ②保護者アンケートにより、客観的評価や課題解決のための意見を教育活動に繋げる ③学校ホームページ更新とInstagram等SNSのSNS発信を積極的にを行い、本校の魅力発信に努める	①学校説明会・体験入学の参加者が昨年度よりも増加し、満足度の高いものであったか。また志願者数は増加したか ①全教職員はもちろん、生徒の協力を得ながら組織として生徒募集業務を実施したか ②本校の現状と課題を全体で共有し、改善策を考察することができたか ②保護者の学校理解と協働体制を構築することができたか(保護者アンケート肯定的意見80%以上) ③SNSの発信やホームページの更新を積極的に行うことができたか					